



TOKYO PHILHARMONIC ORCHESTRA

2022シーズン定期演奏会

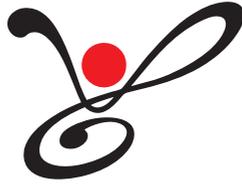
東京フィルハーモニー交響楽団

2022 6



A seat reserved just for you

chie h.



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
オーケストラの響きが満ちる場所でのかけがえのないひとときを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・スポンサー

SONY

Rakuten 25
YEARS

マルハン

LOTTE

ゆうちょ銀行
BANK

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第970回サントリー定期シリーズ

6月8日(水)19:00開演 サントリーホール

第147回東京オペラシティ定期シリーズ

6月9日(木)19:00開演 東京オペラシティコンサートホール

第971回オーチャード定期演奏会

6月12日(日)15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ

コンサートマスター：依田真直

6/8

6/9

6/12

シCHEDリン：

カルメン組曲(G. ビゼーによる)〈シCHEDリン生誕90年〉(約45分)

第1曲 序奏 第2曲 踊り 第3曲 第1間奏曲 第4曲 衛兵の交代
 第5曲 カルメンの登場とハバナラ 第6曲 情景 第7曲 第2間奏曲
 第8曲 ボレロ 第9曲 闘牛士 第10曲 闘牛士とカルメン
 第11曲 アダージョ 第12曲 占い 第13曲 終曲

— 休憩 (約15分) —

チャイコフスキー：

バレエ『白鳥の湖』より(プレトニョフによる特別編集版)(約42分)

- I. 導入曲 — 情景(第1曲)
- II. 第1幕より：イントラダ(導入部) — スラヴ風舞曲 — ヴァリアシオン4(第4曲より)
- III. 第1、2幕より：情景(第10曲) — シュジェ(第7曲) — ポロネーズ(第8曲)
- IV. 第2幕より：情景(第11曲) — 白鳥たちの踊り(第13曲)
- V. 第3幕より：ヴァリアシオン(第19曲)
- VI. 第4幕より：情景(第28曲) — 終曲(第29曲)

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)|

独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人アフィニス文化財団

協力：Bunkamura (6/12)



※演奏中や曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※開演間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

※終演後、ロビーの混雑を避けるため「時差退場」のお願いをしております。ご協力をお願いいたします。

出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

ミハイル・プレトニョフ

Mikhail Pletnev, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 特別客演指揮者

一言では説明できない多才な芸術家。ピアニスト、指揮者、作曲家として魔法のような才能で、世界中の聴衆を魅了している。1957年ロシアのアルハンゲリスク生まれ。1978年、21歳でチャイコフスキー国際コンクールのゴールド・メダルおよび第1位を受賞し、国際的な脚光を浴びる。驚くべき技巧、深い知性に裏づけられた演奏、完璧にコントロールされた美しい音色で、カリスマ的人気を誇る現代最高のピアニストの一人として活躍。

ドレスデン国立歌劇場管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団ほか数々のオーケストラを指揮。ボリショイ・オペラでの『スペードの女王』指揮で大成功を収めているほか、コンサート形式のオペラ指揮も行っている。

1990年ロシア内外の個人、団体より資金を得、ロシア史上初めて国家から独立したオーケストラとしてロシア・ナショナル管弦楽団(RNO)を設立。RNO創設者・芸術監督。指揮者として東京フィルハーモニー交響楽団には2003年7月に初めて客演、以来定期的に招かれ、2015年4月より特別客演指揮者に就任。1995年、2002年にロシア共和国第一等国家賞を授与されている。

楽曲紹介

解説＝柳富美子

シCHEDリン

カルメン組曲(G. ビゼーによる)〈シCHEDリン生誕90年〉

ビゼー(1838-1875)の歌劇『カルメン』(1874)には名旋律が揃っており、様々な組曲や編曲が誕生したが、ロディオン・シCHEDリン(1932-)の『カルメン組曲』(1967)は異彩を放っている。なぜなら、この曲は舞踏が主役の作品に「再編曲」されているからだ。

作曲はシCHEDリンの妻でバレリーナのマイヤ・プリセツカヤ(1925-2015)の依頼による。1966年にキューバの世界的振り付け師アルベルト・アロンソが彼女を主演として『カルメン』のバレエ化を提案してきた。ソ連とキューバの両国友好にも関わる国家企画に対して、プリセツカヤは当初、ショスタコーヴィチら巨匠に依頼したが、「ビゼーと競い合う気はない」と断られ、最後に白羽の矢が立ったのが夫のシCHEDリンだった。若きオーケストレーションの天才は巨匠ビゼーの音楽を前に臆することなく、大胆で斬新な編曲を施し、踊りに大切なリズムを柱に置いて、見事な組曲を仕上げた。1967年4月20日のボリショイ劇場での初演は必ずしも好評ではなかったが、改作を経てからは世界中のバレエ団のレパートリーに入り、同世代の作曲家たちから「巨匠の横に自分の名前を並べる不遜な輩だ」と妬まれるほどの成功を収めた。

管楽器を全て排除した音楽は原曲の単なる変奏ではなく、原曲モチーフを全曲にちりばめ、歌詞の欠落を補って余りある描写力と才気に溢れている。特に打楽器群は、時に熱く時に厳しく、そしてしばしば滑稽に弾け、驚くほどの表現力で迫る。また音楽には『カルメン』以外のビゼーの舞台作品も用いられている。

組曲は以下の13曲から成る。**第1曲「序奏」** 開演を告げるベルが「ハバナラ」を奏でる。**第2曲「踊り」** 第4幕への前奏曲の華やかな「アラゴネーズ」。**第3曲「第1間奏曲」** 第1幕で男たちがカルメンを呼ぶシーン。死を暗示する「運命のテーマ」の変奏。**第4曲「衛兵の交代」** 第2幕への前奏曲「アルカラの竜騎兵」。**第5曲「カルメンの登場とハバナラ」** 第1幕カルメン登場の場面。**第6曲「情景」**

6/8

6/9

6/12

第1幕と第2幕の幾つかのシェーナの組み合わせ。第7曲「第2間奏曲」美しい第3幕への間奏曲。第8曲「ボレロ」『アルルの女』の「ファランドール」。第9曲「闘牛士」エスカミーリヨ登場。第2幕「闘牛士の歌」。第10曲「闘牛士とカルメン」歌劇『美しきパースの娘』から「ジプシーの踊り」。第11曲「アダージョ」第1幕への前奏曲（運命のテーマ）と第2幕「花の歌」。第12曲「占い」第3幕のカルタ占い。第13曲「終曲」オペラの総括。第4幕を圧縮したような旋律が次々に繰り出されたあと、第2幕フィナーレや「運命のテーマ」、そして第1幕カルメン登場へ時間が逆回りし、この組曲冒頭の「序奏」を回想して静かに悲劇の幕を閉じる。

【作曲年代】1967年 【初演】1967年4月20日 モスクワ、ポリショイ劇場にて、ポリショイ・バレエ団による（振付：アルベルト・アロンソ、カルメン：マイヤ・プリセツカヤ）

【楽器編成】ティンパニ、打楽器Ⅰ（カスタネット、カウベル、ボンゴ、ギロ、小太鼓、チューブラーベル、ヴィブラフォン、マリンバ）、打楽器Ⅱ（トライアングル、クラヴェス、ギロ、ウッドブロック、タンバリン、小太鼓、ヴィブラフォン、マリンバ）、打楽器Ⅲ（トライアングル、クロタル、マラカス、ギロ、カバサ、むち、テンブルブロック、小太鼓、テナードラム、大太鼓、タムタム、グロックンシュピール）、打楽器Ⅳ（トライアングル、ハイハットシンバル、タンバリン、トムトム、大太鼓、シンバル、タムタム）、弦楽5部

『白鳥の湖』の物語

ドイツのとある王宮。白鳥狩りに出かけた若き王子ジークフリートに、湖畔で出会った美しい娘オデットが身の上を語ります。「私はある国の王女ですが、悪魔の呪いで白鳥の姿に変えられてしまい夜の間だけ人間に戻ります。この呪いを解く方法はただ一つ、私に永遠の愛を誓ってくれる男性が現れること」。二人は惹かれあいます。



しかし王子は、次の日の舞踏会でオデットそっくりに変身して現れた悪魔の娘オディールをオデットと間違っ、愛の誓いを立ててしまいます。悲しむオデット。過ちに気づいた王子はオデットに赦しを乞い、悪魔の呪いに立ち向かうのでした。

写真提供：TM Photo album / PIXTA(ピクスタ)

チャイコフスキー： バレエ『白鳥の湖』より(プレトニョフによる特別編集版)

6/8

6/9

6/12

これは特別な『白鳥の湖』(作曲1875-76、初演1877)との出会いである。バレエの本舞台を愛好している御仁たちなら兎も角、組曲版に慣れ親しんでいる方々はきっと「知らない曲が多い!」という感想をお持ちになるだろう。従来の組曲は有名旋律の抜粋なので、ストーリー展開は無視されてきた。ところが今回のプレトニョフ特別編集版は、『白鳥の湖』の粗筋を追いつつ音楽が展開していく、謂わば、舞台の縮小版になっている。しかも、選曲を6つの楽章に見立て、各楽章が音楽的に完結するよう、若干曲順を変えたりもしている。つまり、演奏として纏まりのある大曲を目指しつつ『白鳥の湖』の物語を辿る、という画期的な編集になっているのである。従って、組曲版で有名な「4羽の白鳥」や「チャールダーシュ」のような物語展開に直接関係しない名旋律は全てカットされ、代わりに主人公二人の愛を象徴する旋律がこの編集版の中心を担っている。こんなことが出来るのも、チャイコフスキーのバレエ音楽を研究し尽くして、オーケストラ生き写しのピアノ編曲まで創作してしまうプレトニョフだからであろう。以下、粗筋と共に、6つの楽章を略述しよう。(なお、下線は各小品の原曲名、幕の呼び方はプレトニョフ録音盤に従う)。

I. 導入曲—第1曲：原曲の導入曲と第1曲そのまま。舞台では開幕前の序曲の役割を果たしている。冒頭旋律は、のちに現れる「白鳥の主題」の変型。これから始まる物語が幸福に満ちたものではないことを予感させる。

II. 第1幕前半から3曲抜粋：ジークフリート王子の成年を祝う三人の村娘の踊りが中心となる。イントラダ(導入部)は6/8拍子、変ロ長調の流麗な旋律。続いてアンダンテ・ソステヌートのスラヴ風舞曲、最後にヴァリアシオン4の2/4拍子、ヘ長調アレグロの軽快な踊りで終わる。

III. 第1幕後半から3曲抜粋：本来は、誕生祝いの夕暮れに空を行く白鳥を見かけて湖へ向かうシーンだが、この編曲では大胆に曲順が変更され、先ず「白鳥の主題」で有名なオデット姫との出逢いを描いた第2幕冒頭の情景でこの楽章を開始したあと、村祭りの場面へ戻って恋愛未体験の王子の心理を表現したシュジェと、最後は村祭りのポロネーズで盛大に締めくくるという構成。

楽曲としての纏まり感を優先したと言える。

Ⅳ. 第2幕から2曲抜粋：ジークフリート王子とオデット姫が出遭い、永遠の愛を誓う場面。1曲目の情景は、第1部分の軽快な音楽に続いて、二人の対話を描写する第2部分、気持ちが高揚する流麗な第3部分と不幸を暗示する第4の部分から成る。続く白鳥たちの踊りはこのプレトニョフ編集版の中核である。ハーブに導かれてヴァイオリン独奏が歌うオデットと王子の愛のアンダンテ(グラン・アタージョ)の美しさは圧巻である。

Ⅴ. 第3幕から1曲：王子の花嫁選びの舞踏会。原曲では有名民族舞曲が密集しているが、それらには見向きもせずにプレトニョフが選んだのは、六人の花嫁候補が踊る6つの踊りのうちの2番目のヴァリアシオン2のみ。2/4拍子、ト短調の民謡風主題が、省略された全ての民族舞曲を代表する形となっている。

Ⅵ. 第4幕から2曲：オデットに似た黒鳥オディールに王子が騙されたことで、オデットが悲しみに暮れるアレグロ・アジタートの情景、そして全曲を締めくくる終曲では主題が短調から長調へ転調して、二人の愛が悪魔の妨害を克服したことを高らかに宣言する。

[作曲年代] 1875～76年 [初演] 1877年3月4日 モスクワ、ボリショイ劇場にて、ボリショイ・バレエ団による(振付：ヴェンツェル・レイジンゲル、オデット：ペラゲーヤ・カルパコワ、アンナ・ソベシチャンスカヤ)(バレエ初演)

[楽器編成] ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、コルネット2、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(小太鼓、大太鼓、トライアングル、シンバル、タムタム、グロッケンシュピール)、ハーブ、弦楽5部

ひとつやなぎ・ふみこ(音楽学)／ロシア音楽研究の第一人者。国際音楽学会シヨスタコーヴィチ研究班アジア代表委員。ロシアオペラ・声楽・ピアノズムに特に造詣が深い。ロシア音楽研究会主宰。ロシアン・ピアノ・スクールin東京総合監修。研究・執筆、声楽指導、音楽通訳・翻訳・字幕を手掛け、邦訳したオペラ等の大曲だけでも50を超える。



[特別記事]

『カルメン組曲』と『白鳥の湖』 ～作曲家を導いたミューズたち～

文=赤尾雄人

東京フィル6月の定期演奏会はミハイル・プレトニョフの指揮で、ロジオン・シCHEDリンの『カルメン組曲』とピョートル・チャイコフスキー作曲『白鳥の湖』(抜粋)という、バレエ音楽尽くしのプログラムである。

欧米の指揮者は管弦楽の演奏会のほかに、何れかの歌劇場に腰を据えてオペラの指揮をすることが多いが、ロシアで一流と目される指揮者はオペラよりもバレエから出発した人が多い。ロジェストヴェンスキーやゲルギエフは言うを俟たず、ムラヴィンスキーやスヴェトラノフ、フェドセーエフもバレエ公演で指揮した経験を持っている。プレトニョフも指揮者としての活動を本格化した1990年代初めに、ボリショイの名花エカテリーナ・マクシーモワ(1939-2009)が主演したプロコフィエフの『シンデレラ』を指揮している。

今回演奏される二作品はいずれも不世出の名プリマ、マイヤ・プリセツカヤ(Maya Plisetskaya, 1925-2015)が十八番おはことしたバレエである。



『カルメン組曲』は1967年にボリショイ劇場で初演された。当時プリセツカヤは『白鳥の湖』のような古典バレエに飽き足らず、新しいスタイルのバレエを渴望していた。そんなとき彼女はキューバからやってきた舞踊家アルベルト・アロンソの斬新な舞踊語彙に魅せられた。アロンソの振付でカルメンを踊りたいという情熱に掻き立てられたプリセツカヤは、もうその翌日には当時のソ連文化相フルツェワの支持を取り付けていた(フルツェワはこのバレエが「ソ連とキューバの友好関係を深める」という言葉に動かされた)。

プリセツカヤの夫シCHEDリンはビゼーの同名のオペラやその他の管弦楽曲をベースに、『カルメン組曲』を弦楽器と4群のパーカッションという特異な器楽編成で書いた。これは柔らかく優美な動きを特徴とする古典バレエと異なり、腕や脚を鋭く直線的に運び出すアロンソの独特な振付に触発されたものである。「私は狭い台所のなかで…アルベルトが振り付ける一つひとつの新しいエピソードを踊って見せました。シCHEDリンは私の途切れ途切れの動作を注意深く見つめ、そこに何か秘められたアクセントを見出したようでした」。こうして得られた響きは「尋常でなく、くっきり鋭く鮮明で、現代的で、瑞々しさとけたたましさと精彩を持ち、破滅的かつ崇高なものでした」(プリセツカヤ自伝より、抄訳)。



プリセツカヤこそはシCHEDリンにとって芸術創造(バレエ作曲)のミューズであり、『カルメン組曲』は彼が愛妻プリセツカヤに捧げたオマージュであった。

1968年にマイヤ・プリセツカヤが初来日し、東京バレエ団『白鳥の湖』全幕に出演した際のプログラムより。本人のサインと日付が入っている(著者提供)



『白鳥の湖』を創作していたころ、チャイコフスキーにはミューズと言えるような女性がいたでしょうか?

チャイコフスキーはしばしば同性愛者だったと言われるが、実際は女性に奥手だっただけで、モスクワ音楽院で教鞭を取っていた1868年にはフランス人オペラ歌手、デジーレ・アルトー(1835-1907)と相思相愛の仲になっている。だが、作曲家の創作活動の妨げになることを懸念した周囲の画策により二人の関係は破綻し、それが彼の心に大きな傷を残したと考えられる。

彼は『白鳥の湖』を脱稿した1876年にナデジダ・フォン・メック夫人(1831-1894)と文通を始めたが、生涯を通じて対面することはなかった。いっぽう、バレエが初演された77年にはアンナ・ミリュコーワ(1848-1917)と結婚したが、こ

れが不幸な結末に終わったことは周知の通りである。『白鳥の湖』初演で主演したのはポリーナ・カルパコーワとアンナ・ソベシチャンスカヤ(公演4日目から)という二人のバレリーナだったが、チャイコフスキーがこの二人に特別な感情を抱いていた形跡はない。

さて先年、ボリショイ劇場の改修に伴いアーカイヴの整理が行われていたとき、2台のヴァイオリンによる『白鳥の湖』初演時のリハーサル譜が発見された。これは2015年に『モスクワ・ボリショイ劇場における《白鳥の湖》. 1875-1883』として出版され、そこに収められた当時の記録から、『白鳥の湖』の初演はもともとリディヤ・ゲイテン(Lydia Geiten, 1857-1920)という舞姫が主演する予定だったことが確認された。このことは1900年にゲイテン自身が「チャイコフスキーは私のために『白鳥の湖』を作曲した」と発言していたのだが、確証が得られていなかったのである。

ゲイテンは生粋のモスクワのバレリーナで、バレエ学校時代から『ドン・キホーテ』(1869)などにソリストとして出演していた。1874年に卒業してボリショイ劇場に入るとたちまち頭角を現し、「古典舞踊ではフランス流派の優雅さを持ち、性格舞踊では生き生きとして繊細な、『燃えるようなエネルギー』を放った」(上掲書)という。特に重要なのは1875年からバレエ『ジゼル』の標題役を、ボリショイではただ一人、ゲイテンが踊っていたことである。『白鳥の湖』の作曲にあたってチャイコフスキーが『ジゼル』を参考にしたことはつとに有名だが、彼はまたゲイテンという舞姫その人にも魅せられていたかも知れない。

リハーサル譜の発見とそこに記されていた振付家のメモにより、ゲイテンがリハーサルの途中まで参加していたことは確認されているが、彼女が降板した理由は明らかになっていない。恐ら

ボリショイ劇場『ドン・キホーテ』キトリ役でのリディヤ・ゲイテン(1891年)

[Большой балет. Балет Большого театра СССР (The Bolshoi Ballet: Ballet Company of the Bolshoi Theatre of the USSR) edited by Boni, V.A. Published by Planeta Publishers, Moscow, 1981 p.82](所蔵:兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション)



くは和声やリズムの平明な踊りやすい音楽に慣れていたバレリーナが、チャイコフスキーの交響乐的な音楽を敬遠したのだろう。だとするとチャイコフスキーは気難しいミュージックに翻弄されながらもバレエ史上に燦然と輝く名作を生み出したことになるが、これ以上は想像の域を出ない。

ともあれ、ステージでバレエを観るだけでなく、こうして音楽を聴きながら当時作曲家の心が奈辺にあったか想いを馳せるのも、ほろ苦くもまたロマンティックな愉しみである。

赤尾雄人(あかおゆうじん)／1960年生まれ。東京大学教養学部教養学科卒業。東京大学大学院総合文化研究科比較文学比較文化専修・修士課程修了。著書に『これがロシア・バレエだ!』(新書館)、共訳書にマックレル、クレイン『オックスフォード バレエダンス事典』(平凡社)、モリソン『ポリシヨイ秘史』(白水社)など。



ロディオン(ロジオン)・シCHEDリン (1932-) 作曲家



(Reprinted by kind permission of Boosey & Hawkes)

1932年12月モスクワ生まれ。シCHEDリンはその音楽のキャリアを生地モスクワの合唱学校の歌手として開始した。モスクワ音楽院で作曲とピアノを学び作曲活動を開始、1958年にポリシヨイ劇場の名プリマ・バレリーナ、マイヤ・プリセツカヤと結婚。

冷戦時代よりその作品は欧米各国でバーンスタイン、マゼール、ヤンソンス、小澤征爾といった世界的指揮者らにより初演され、1970～80年代にはバイエルン美術アカデミー通信会員、ドイツ芸術アカデミー名誉会員、国際音楽評議会名誉会員、ベルリン芸術アカデミー会員など歴任。ショスタコーヴィチの没後1973年にはそのあとを継いでソヴィエト連邦作曲家同盟(当時)理事に就任、10年以上にわたりその任を務めた。2度のグラミー賞ノミネート、独工コークラシック賞受賞、世界的コンクールでの作品初演、1995年ダボス会議(世界経済フォーラム)にて「世界の問題を解決するために貢献した文化人に贈られる」クリスタル・アワードなど受賞多数。激動の20世紀を生きた、世界から尊敬を集める芸術家である。現在はミュンヘンとモスクワに居住。(文=東京フィル)

The 970th Suntory Subscription Concert

Wed. June 8, 2022, 19:00 at Suntory Hall

The 147th Tokyo Opera City Subscription Concert

Thu. June 9, 2022, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 971th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. June 12, 2022, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

Mikhail Pletnev, conductor

Masanobu Yoda, concertmaster

Rodion Shchedrin:

"Carmen Suite" (after G. Bizet) (ca. 45 min)

- No. 1. Introduction No. 2. Dance No. 3. First Intermezzo
 No. 4. Changing of the Guard No. 5. Carmen's Entrance and Habanera
 No. 6. Scene No. 7. Second Intermezzo No. 8. Bolero
 No. 9. Torero No. 10. Torero and Carmen No. 11. Adagio
 No. 12. Fortune-Telling No. 13. Finale

— intermission (ca. 15 min) —

Pyotr Ilyich Tchaikovsky:

Excerpts from the ballet "Swan Lake" Op. 20

(Pletnev special edition) (ca. 42 min)

- I. Introduction - No.1. Scene
 II. No. 4. Pas de trois
 III. No. 10. Scene - No. 7. Sujet - No. 8. Dance of the Goblets
 IV. No. 11. Scene - No. 13. Dances of the Swans
 V. No. 19. Pas de six
 VI. No. 28. Scene - No. 29. Finale

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra
 Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |
 Japan Arts Council, Affinis Arts Foundation
 In Association with **Bunkamura** (June 12)



- Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter just before the concert, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- In order to avoid crowding when exiting the hall, we ask that you exit the hall by staggered times in cooperation with guidance that staff will provide at the venue at the end of the concert.

8
June

9
June

12
June

Artist Profile



©Takafumi Ueno

Mikhail Pletnev, conductor

Special Guest Conductor of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

8
June

9
June

12
June

Mikhail Pletnev is an artist who cannot be classified in one word. Known as a genius and one of the greatest pianists of our time and also as conductor and composer. Born in Archangel, Russia in 1957. Awarded the 1st prize and Gold Medal at renowned Tchaikovsky Competition in 1978 when he was 21 years old.

He founded the Russian National Orchestra (RNO) in 1990, a unique orchestra among the principal Russian ensembles as a private institution funded with the support of individuals, corporations and foundations in Russia and throughout the world.

Under his artistic leadership as Founder and Artistic Director, RNO, in less than a decade, has come to be known as one of the world's leading orchestras. Pletnev is also invited to conduct noted orchestras such as Staatskapelle Dresden, Royal Concertgebouw Orchestra, and others.

Starting from July 2003, he is invited to conduct Tokyo Philharmonic Orchestra and was appointed as Special Guest Conductor from 2015 season. As a composer, he has been composing numerous works among which there is a cello sonata written for Steven Issarlis.

CDs have been released from Deutsche Grammophon and Pentatone Classics. Awarded the First State Prize of the Russian Federation in 1995 and in 2002.

Program Notes

Text by Robert Markow

Shchedrin: "Carmen Suite" (after G. Bizet)

Rodion Shchedrin, who turns 90 this December, is widely regarded as one of the most important and best known Russian composers of his generation. Throughout the years of strong Party control, he was known (in the west, at any rate), as the Soviet Union's "token modernist." Stanley Krebs, in *Soviet Composers and the Development of Soviet Music*, has summarized Shchedrin's music as displaying "impressive technical mastery, preoccupation with sheer sound, use of a folk idiom, eclectic harmony, avoidance of introspection and formal depth, an overwhelming emphasis on program music and vocal-symphonic genres, and point blank communicative aim at the mass audience."

The idea for the 45-minute *Carmen Suite* ballet came from his wife, the famed ballerina Maya Plisetskaya. After long and difficult negotiations, Plisetskaya succeeded in arranging for Alberto Alonso (brother of Alicia Alonso of the famed Ballet Nacional de Cuba) to design the choreography for her. Shchedrin reworked Bizet's score into thirteen numbers, some of which flow into each other without pause. Most of his titles have little to do with Bizet's original. One of the most striking features of Shchedrin's transcription is the instrumentation, which omits all wind instruments but requires, in addition to the standard string section, nearly fifty(!) percussion instruments played by five musicians. The first performance was given by the Bolshoi Ballet in Moscow on April 20, 1967.

A brief introductory passage sets the stage for the story about to unfold. Bells and pizzicato violins quietly reminisce on the Habanera theme through a gentle haze of strings. A huge crescendo leads directly into the next number, the "Aragonaise," the dazzling dance music that opens Act IV of the opera. Spanish to the core, richly imbued with the rhythms and sounds of this land, the music features strumming guitar effects, sinuously flowing melodic lines, and lots of percussion. In the "First Intermezzo," Shchedrin replaces Bizet's voices with the marimba for the scene where young men are entreating Carmen, upon her first entrance, to love them

8
June

9
June

12
June

today, or maybe tomorrow ... whenever. The menacing Fate motif steals in (violas and cellos) to spoil the good-natured banter, reminding us that this story has a grim ending.

Shchedrin's Suite continues on with a military ditty ("The Changing of the Guard"); Carmen's famous "Habanera"; an electrifying passage from Act II where Carmen and a large cast of outlaws are inviting Don José (her former lover) to join them in their wanton way of life; a soothing "Second Intermezzo" (originally for flute and harp; Shchedrin has other ideas!); a number Shchedrin calls "Bolero," even though there's no bolero in Bizet's opera (it's really the "Farandole" from another Bizet score, *L'Arlésienne*); the entrance music of the proud toreador (bullfighter) Escamillo; another insert from another Bizet score – this time from the opera *La jolie Fille de Perth* (a sensuous theme from the violins accompanied by the suspended cymbal); the return of the "Fate" motif (this time with attitude!); the darkly-mysterious workings of the Fate motif during the "Fortune-Telling" scene; and finally the extended Finale. The epilogue takes us back to the score's opening pages, as all the vibrant colors and violent emotions of the opera fade into the mists of memory.

RODION SHCHEDRIN: Born in Moscow, December 16, 1932; now living in Moscow and Munich

Work composed: 1967 **World premiere:** April 20, 1967, at the Bolshoi Theater in Moscow

Instrumentation: timpani, Percussion I: castanets, 3 cowbells, 4 bongos, guiro, snare drum, bells, vibraphone, marimba; Percussion II: triangle, claves, guiro, 2 wood blocks, tambourine, snare drum, vibraphone, marimba; Percussion III: triangle, crotales, maracas, guiro, chocalho, whip, 3 temple blocks, snare drum, tenor drum, bass drum, tam-tam, glockenspiel; Percussion IV: triangle, charleston, tambourine, 5 tom-toms, bass drum, cymbals, tam-tam, strings

Tchaikovsky: Excerpts from the ballet "Swan Lake" Op. 20 (Pletnev special edition)

Before Tchaikovsky turned his attention to the ballet, this genre in Russia was already highly fashionable. Performances were attended by the élite of society, even by czars. But the music for these events was invariably weak

and instantly forgettable, often patchworks by a variety of composers and arrangers for threadbare plots and serving merely as an aural backdrop against which dancers went through their paces and stars sustained their prestige. Serious symphonic composers avoided the stigma of writing ballet music. Tchaikovsky changed all that.

Beginning with *Swan Lake* in 1877, and continuing through *Sleeping Beauty* (1890) and *The Nutcracker* (1892), Tchaikovsky's ballet scores elevated the genre immensely through deep musical characterization, symphonic scope, motivic construction, and some of the best music by any standards, balletic or otherwise. All three of these full-length (*i.e.*, an evening's entertainment in several acts) works have entered both the ballet and symphonic repertoires as classics, with *Swan Lake* at the very pinnacle of the world's favorite ballets.

Strangely enough, *Swan lake* was not an immediate hit. In its first production at the Bolshoi Theater in Moscow on March 4, 1877, it was deemed a failure, though for reasons that had nothing to do with the original music. Among other things, the integrity of the score was mercilessly compromised with cuts, alterations, and insertions of unrelated music by other composers. It was dropped from the repertory six years later. In the 1890s, the ballet was given a new lease on life through the efforts of the brilliant and enterprising choreographer Marius Petipa, his assistant Lev Ivanov, and the director of St. Petersburg's Imperial Theaters, Ivan Vsevolojksy. A performance of the second act alone was given in St. Petersburg in February, 1894, and a full production was unveiled in January 1895, paving the way for the ballet's unending success ever after.

Suites of numbers drawn from *Swan Lake* abound. Conductor Mikhail Pletnev has put together his own, consisting of six substantial passages totaling about 1/3 of the complete score. They run in chronological order, with one exception noted below.

I. The Introduction sets the tragic tone of the story. The first sounds we hear are those representing the fate of the swans. A fiery interlude depicts the evil von Rotbart. The curtain goes up on Act I to reveal a large park with a

8
June9
June12
June

castle visible in the background. Prince Siegfried is celebrating his twenty-first birthday. Friends and peasants join him in the festivities.

II. This is a *pas de trois*, a sequence of short numbers for three solo dancers as a *divertissement* (entertainment) for the Prince.

III. The music that introduces Act II is some of the most famous Tchaikovsky ever wrote. The haunting Swan motif is heard in various instruments, beginning in the solo oboe, passing to the unison horns *fortissimo*, and ending in the bassoons and basses, where it subsides into the dark mists. All this accompanies a scene of swans gliding on a moonlit lake in the forest. Pletnev's suite now returns to Act I, where we hear the Dance with Goblets, preceded by a short introduction. The festive Dance is set to the polonaise rhythm.

IV. In this passage we hear excerpts from the extended scene at the forest lake where Prince Siegfried, as a member of a hunting party, encounters Odette, Queen of the Swans. She explains to him that she, like all the other swans, is under a spell by the evil von Rotbart, a spell that prevents her from becoming fully human unless and until a man pledges his undying love and marries her. Siegfried and Odette express their love in a *pas de deux* accompanied by elaborate solos for violin and cello.

V. In Act III we are back at the court in the ballroom, where we hear an excerpt from the *pas de six*. Six princesses each do a dance before Prince Siegfried in hopes of becoming his wife.

VI. These are the final pages of Act IV, where Siegfried outwits von Rotbart's attempt to thwart his love for Odette. The lovers commit suicide together by drowning, thus confirming the Prince's undying love and ending von Rotbart's spell over all the swans.

PIOTR ILYICH TCHAIKOVSKY: Born in Votkinsk, May 7, 1840; died in St. Petersburg, November 6, 1893

Work composed: 1875-76 **World premiere:** March 4, 1877, at the Bolshoi Theater in Moscow (complete ballet)

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 cornets, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (snare drum, bass drum, triangle, cymbals, tam-tam, glockenspiel), harp, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

2022 Season Subscription Concerts Lineup

July

Thu. July 7, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun. July 10, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Tue. July 12, 19:00
at Suntory Hall

conductor : Daichi Deguchi

violin: Mayu Kishima

<The 30th Anniversary of the Establishment of
the Diplomatic Relations between the
Republic of Armenia and Japan>

Khachaturian:

Experts from the ballet "Gayane"

Khachaturian: Violin Concerto

Khachaturian:

Symphony No. 2 "The Bell"

Single tickets available

September

Thu. Sep 15, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri. Sep 16, 19:00
at Suntory Hall

Mon./Holiday Sep 19, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor : Andrea Battistoni,
Chief Conductor

Liszt/Battistoni: *Années de pèlerinage,*
Deuxième année - Italie, S. 161: No. 7,
Après une lecture du Dante
(After a Reading of Dante from Years of
Pilgrimage "Second Year: Italy" S. 161 No. 7)

Mahler: *Symphony No. 5*

Single tickets available

October

Thu. Oct 20, 19:00
at Suntory Hall

Fri. Oct 21, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun. Oct 23, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

conductor : Myung-Whun Chung,
Honorary Music Director

**Sir John Falstaff: Sebastian Catana
& more**

Verdi:

Opera "Falstaff" in concert style
with Japanese supertitles

Libretto by Arrigo Boito
from William Shakespeare's
"The Merry Wives of Windsor"

Single tickets available

Price list

Seat Type	SS	S	A	B	C
Single tickets	¥15,000	¥10,000	¥8,500	¥7,000	¥5,500
"TPO Friends(10% discount)"	-	¥9,000	¥7,650	¥6,300	¥4,950

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522
(weekdays 10:00 - 18:00, closed on weekends and holidays)



Infection Control at Tokyo Phil

In our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



The audience's temperature is checked with a thermography camera and so on.



In order to avoid crowding when entering and exiting the hall, we ask that you enter and exit the hall by staggered times. Thank you for your cooperation.

If the attendee who comes to the venue is different from the purchaser of the ticket, we request to fill out the attendee's contact information in the ticket stub. The contact information will be kept under lock and incinerated one month after the performance.

Photo by K. Miura / Takafumi Ueno



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

Please wear a mask at all times in the hall.

Please refrain from talking in the lobby or in the auditorium.

Please keep ample distance between audience members in the lobby.

Please disinfect your hands frequently.

Our staff will disinfect and wipe down the venue.

Adequate ventilation is provided in the auditorium.

Please cooperate with staggered entry and exit.

東京フィルだより - 2022年シーズン今後の定期演奏会

7月の定期演奏会

第148回東京オペラシティ定期シリーズ

7月7日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第972回オーチャード定期演奏会

7月10日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第973回サントリー定期シリーズ

7月12日(火) 19:00 サントリーホール

指揮：出口大地

(2021年ハチャトゥリアン国際コンクール第1位、
クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位入賞)

ヴァイオリン：木嶋真優*

〈日本・アルメニア外交関係樹立30周年記念〉

ハチャトゥリアン／バレエ音楽『ガイヌ』より

ハチャトゥリアン／ヴァイオリン協奏曲*

ハチャトゥリアン／交響曲第2番『鐘』



出口大地 @hiro.pberg_berlin B2



木嶋真優 @KINYA OTA (MILD)

指揮者・出口大地の動画メッセージはこちらから (Youtube)



9月の定期演奏会

第149回東京オペラシティ定期シリーズ

9月15日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第974回サントリー定期シリーズ

9月16日(金) 19:00 サントリーホール

第975回オーチャード定期演奏会

9月19日(月・祝) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ

(東京フィル首席指揮者)

リスト(バッティストーニ編)／

『巡礼の年』第2年「イタリア」より ダンテを読んで

マーラー／交響曲第5番



アンドレア・バッティストーニ @上野隆文

首席指揮者アンドレア・バッティストーニのメッセージはこちらから (Youtube)



【料金】1回券 SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時/発売日を除く土日祝日)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

アルメニアと日本の友情の架け橋 俊英が紡ぐ オール・ハチャトゥリアン・プログラム

7月の定期演奏会には様々なトピックがあるが、まず何よりも強調したいのは、オール・ハチャトゥリアン・プロであること、そして交響曲第2番『鐘』が演奏されることである。彼の最重要作品と見なされる大作だが、実演機会は稀少を極める。東京のプロ楽団ではおそらく今世紀初の上演であり、待望の好機をとにかく喜びたい。

20世紀に存在したソヴィエト社会主義共和国連邦。代表的な作曲家といえば、ショスタコーヴィチ、プロコフィエフ、そしてハチャトゥリアンの3人の名前が挙げられることが多いだろう。

アラム・イリイチ・ハチャトゥリアンは、1903年、アルメニア人の両親のもと、ジョージア（旧グルジア）の首都トビリシで生まれ育った。同地は南コーカサスの文化が集中する都市で、少年時代から様々な音楽に触れる機会があったという。モスクワで正式に音楽を学び始めたのは19歳だが、ほどなくして頭角を現し、30代ですでに著名な存在に。アルメニア音楽をはじめ民族的な要素を軸としながら、全く独自のエ



アルメニアの首都エレバンの風景

キゾチックで情熱的な作風を確立し、ローカルな存在に留まらず、ソヴィエトを代表する国際的な作曲家の地位を築いた。オペラ以外のほぼ全ジャンルで多数の作品を残し、映画音楽でも活躍。別格の知名度を誇る「剣の舞」や、フィギュアスケートでの浅田真央選手が使用した『仮面舞踏会』の「ワルツ」などはおなじみの存在だろう。

彼自身についてはまだ知られていないことも多いが、2019年には映画「剣の舞 我が心の旋律」でハチャトゥリアンが主人公として描かれるなど、いままも再認識・再評価が進んでいる。

7月の演目は、バレエ音楽『ガイヌ（ガヤネー）』より5曲、ヴァイオリン協奏曲、そして交響曲第2番『鐘』。いずれも作曲者30代後半から40歳までの作曲で、充実期のいずれ劣らぬ傑作がそろろう。

全曲2時間超の『ガイヌ』から選ばれたのは、「剣の舞」のほか、妖艶な「アイシェの目覚めと踊り」、豪放な「山岳民族の踊り」、神秘的な「ガイヌのアダージョ」（映画「2001年宇宙の旅」にも使われた）、血沸き肉躍る「レズギンカ舞曲」。著名な5曲で大作のエッセンスを楽しめる。

作曲者の世界的名声を決定づけたヴァイオリン協奏曲は、思わず体が動いてしまうような強烈なリズムと濃厚な旋律美にあふれる、20世紀の同ジャンル屈指の名作。

『鐘』は1943年、ソヴィエトがナチス・ドイツに侵攻された「独ソ戦」の最中に書き始められた。冒頭から警鐘が響き渡り、作品全体も悲劇的な色調に覆われる。グレゴリオ聖歌「怒りの日」も現れる緩徐楽章を経て、最後は力強く勝利を希求する大作。いよいよその全貌を体感できる。

この攻めたプログラムを組んだのは、東京フィル初登場の若きマエストロ、出口大地。1989年生まれ、大阪出身の俊英で、昨年アルメニアで開催されたハチャトゥリアン国際コンクール指揮者部門で優勝したことで、一気にその名を知らしめた。その後はクーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位も受賞し、いままさに勢いに



アラム・ハチャトゥリアン
(1903-1978) 指揮者として
1963年に来日。7月定期では、初来日でハチャトゥリアンが指揮した演目と同じ曲を取り上げる



2021年クーセヴィツキー国際指揮者コンクール本選での出口大樹



木嶋真優は東京フィル定期に2回目の登場となる ©KINYA OTA (MILD)

乗っている指揮者である。アルメニアでの優勝時には、作曲者が使用した指揮棒で『鐘』のフィナーレを振ったとのことで、ゆかりのハチャトゥリアン・プロに期待が高まる。実は今回が日本プロ楽団デビューとのことで、未来の名匠誕生に期待したい。すぐに定期に招聘した東京フィルの慧眼と勇気も賞賛されよう。

協奏曲のソリストは木嶋真優。第一線で長く活躍する名手で、近年はテレビ出演でも知られるが、その演奏は紛れもなく世界水準のもの。圧倒的な技巧、深い集中力、濃密な歌。ロシアの名教師ザハール・ブロンに師事した木嶋の名技で聴くハチャトゥリアン、決定的な名演が体験できそうだ。

2022年は「日本・アルメニア外交関係樹立30周年記念」にあたる。本公演は駐日アルメニア大使館の後援がつき、国交の観点からも意義深い公演となる。思い起こせば、ソヴィエト連邦が崩壊したのは1991年末。多くの共和国がそこから独立し、各国と国交樹立していったのが翌1992年で、今年は重要な節目の年である。

この2022年というタイミングで奏でられる、ハチャトゥリアンの『鐘』。その警告の鐘の音に込められたメッセージ、いまこそ共有しなくてはならない。

林 昌英(はやし・まさひで/音楽ライター) 出版社勤務を経て、音楽誌制作に携わり、現在はフリーライターとして活動。「ぶらあぼ」等の音楽誌、Webメディア、コンサートプログラム等に記事を寄稿。オーケストラと室内楽(弦楽四重奏)を中心に執筆・取材を重ねる。2020年桐朋学園大学カレッジ・ディプロマ・コース音楽学専攻修了、研究テーマはショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲。

公演情報など詳細は21ページを参照ください。

News & Information

令和4年度 文化庁「文化芸術による子供育成推進事業」 (巡回公演事業)《東京フィルがやってきた!》開始!

文化庁が主催し、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行う本事業の訪問先が決定しました。

5～10月にかけて、ワークショップとして少人数で訪問し、それぞれの楽器の音色や特徴についての理解を促し、鑑賞指導やボディーパーカッションなどの実技指導を行います。その後、大編成のオーケストラで訪問し、本格的な管弦楽を生の演奏で届けます。ふだん、生の演奏に触れる機会のない子供たちが演奏者の間近で音楽を見聴きし、リアルな体験の喜びを感じるとともに、自分自身も演奏に参加することで創造性やコミュニケーション能力を発揮し、他者と体験を共有し共感する場となることを目指しています。B区分は大規模編成での訪問を想定、C区分は児童・生徒数の少ない小規模な学校・地域への訪問を想定しています。

過去の巡回公演の実績などはp39もあわせてご覧ください。



公演後に届いた子供たちからのメッセージ集

◇B区分(都道府県別訪問順)

島根県	奥出雲町立亀嵩小学校
広島県	海田町立海田中学校、広島市立五日市中央小学校、世羅町立世羅中学校
山口県	柳井市立柳井小学校、山口市立小郡中学校
島根県	吉賀町立柿木中学校

◇C区分(都道府県別訪問順)

大分県	九重町立飯田小学校
熊本県	天草市立栖本小学校、苓北町立坂瀬川小学校、熊本市立田底小学校
福岡県	八女市立八幡小学校
鹿児島県	曾於市立月野小学校
宮崎県	串間市立大東小学校



過去の開催時の様子(左から2020年8月釧路市立中央小学校、2021年2月山梨県立高等支援学校 桃花台学園)

**【特別演奏会】ユニセフ親善大使・黒柳徹子の
「ハートフルコンサート2022」詳細決定！
チケット発売中！**

日時 2022年8月15日(月)14時開演

会場 東京芸術劇場コンサートホール

出演 お話・語り: 黒柳徹子

ヴァイオリン: 前橋汀子*

指揮: 角田鋼亮

曲目 ベートーヴェン／

ヴァイオリンと管弦楽のためのロマンス第2番*

サラサーテ／ツイゴイネルワイゼン*

小森昭宏／音楽物語『窓ぎわのトットちゃん』

[語り・原作:黒柳徹子 構成:黒柳徹子・飯沢 匡]ほか

料金 S席¥6,200 A席¥5,100円 B席¥4,100

C席¥3,600 車いす席¥3,100

発売日 最優先(賛助会員・定期会員)／

優先(東京フィルフレンズ会員) 発売中

一般発売 6月14日(火)10:00～



黒柳徹子

©下村一喜



前橋汀子

©徳山紀信



角田鋼亮

©Hikaru Hoshi

「午後のコンサート」7～9月公演、1回券発売開始！

人気シリーズ「午後のコンサート」3シリーズの7月～9月公演の1回券を下記の日程で発売開始いたします。4回セット券の販売により、すでに残席わずかとなっている席種・公演がございます。残席状況はお確かめください。

最優先(賛助会員・定期会員) 6月14日(火)10時～ ※お電話のみ

優先(東京フィルフレンズ会員) 6月18日(土)10時～ ※お電話のみ

WEB優先 6月18日(土)10時～6月27日(月)23:59

一般 6月28日(火)10時～

公演の日程、詳細はp28をご覧ください。

問合せ

東京フィルチケットサービス

03-5353-9522 (10時～18時/土日祝休)

東京フィルWEBチケットサービス

<https://www.tpo.or.jp/>

2022シーズン 今後の定期演奏会

7
月

指揮：出口大地

(2021年ハチャトゥリアン国際コンクール第1位、
クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位入賞)
ヴァイオリン：木嶋真優*第148回 7月7日(木) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第972回 7月10日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール
第973回 7月12日(火) 19:00
サントリーホール<日本・アルメニア外交関係樹立30周年記念>
ハチャトゥリアン/
バレエ音楽『ガイヌ』より
ハチャトゥリアン/ヴァイオリン協奏曲*
ハチャトゥリアン/交響曲第2番『鐘』

1回券発売中

9
月指揮：アンドレア・バッティストーニ
(東京フィル首席指揮者)第149回 9月15日(木) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第974回 9月16日(金) 19:00
サントリーホール
第975回 9月19日(月・祝) 15:00
Bunkamuraオーチャードホールリスト(バッティストーニ編) /
『巡礼の年』第2年「イタリア」より
ダンテを読んで
マーラー/交響曲第5番

1回券発売中

10
月指揮：チョン・ミョンフン
(東京フィル名誉音楽監督)ファルスタッフ：セバスティアン・カターナ
フォード：須藤慎吾 フェントン：小堀勇介
カイウス：清水徹太郎 バルドルフォ：大槻孝志
ピストーラ：加藤宏隆 アリーチェ：砂川涼子
クイックリー：中島郁子 ナンネッタ：三宅理恵
メグ：向野由美子 新国立劇場合唱団

オペラ演奏会形式

ヴェルディ/歌劇『ファルスタッフ』
全3幕 字幕付原語(イタリア語)上演
原作：ウィリアム・シェイクスピア
『ウィンザーの陽気な女房たち』
台本：アッリーゴ・ボーイト第976回 10月20日(木) 19:00
サントリーホール
第150回 10月21日(金) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第977回 10月23日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

1回券発売中

チケット料金
(税込)

1回券	SS席	S席	A席	B席	C席
定価	¥15,000	¥10,000	¥8,500	¥7,000	¥5,500
東京フィルフレンズ (※定価の10%OFF)	-	¥9,000	¥7,650	¥6,300	¥4,950

問合せ 東京フィルチケットサービス

発売日などの詳細は

Tel 03-5353-9522 (10時~18時・土日祝休/
発売日の土日祝は10時~16時)

URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)



2022シーズン 午後のコンサート。 いよいよ開幕!

2022シーズンの「午後のコンサート」、開幕いたしました。ゆったりとした午後のひとときを、オーケストラの名曲と幅広い世代の音楽家のお話で楽しむ「午後のコンサート」。現在、6月公演の1回券発売中、6月に7～9月公演の1回券を発売いたします。ひきつづきお楽しみください。



料金表	S席	A席	B席	C席
1回券(定価)	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
(東京フィルフレンズ)	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます。

“大人の渋谷”、Bunkamuraで楽しむ 渋谷の午後のコンサート

Bunkamura オーチャードホール
開演14:00 (開場13:15)

7月27日(水) 第14回

指揮とお話: **三ツ橋敬子**
バンドネオン: 小松亮太



夏を踊る

1回券6月発売

ガーデ/ジェラシー*
ピアノ/アディオス・ノニーノ*、リベルタンゴ*
ビゼー/歌劇『カルメン』第1組曲
ファリャ/バレエ音楽『三角帽子』
第2組曲より「粉屋の踊り」～終曲

ほか

9月2日(金) 第15回

指揮とお話: **小林研一郎**
ヴァイオリン: 荒井里桜



コパケンの名曲アラカルト

1回券6月発売

グリーンカ/歌劇『ルスランとリュドミラ』序曲
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲*
ドヴォルザーク/スラブ舞曲第10番
スメタナ/連作交響詩『わが祖国』より
「シャルカ」「モルダウ」

11月24日(木) 第16回

指揮とお話: **大井剛史**
ソプラノ: 森麻季



クリスタル・クラシック

1回券8月発売

ドヴォルザーク/序曲『謝肉祭』
わが母の教えたまひし歌*
山田耕筰/赤とんぼ* この道*
ブッチャーニ/歌劇『パ・ボエーム』より
「私が街を歩けば」*
ドヴォルザーク/交響曲第8番

ほか

ゆったりと、平日午後には“音楽のご褒美”
平日の午後のコンサート **東京オペラシティ コンサートホール**
開演14:00 (開場13:15)

6月23日(木) 第26回

指揮とお話：
チョン・ミン
(アソシエイト・コンダクター)



マエストロの旅

1回券発売中

ベルリオーズ／ローマの謝肉祭
ウェーバー／歌劇『魔弾の射手』序曲
ロッシーニ／歌劇『ウィリアム・テル』序曲
ストラヴィンスキー／バレエ組曲『火の鳥』

8月5日(金) 第27回

指揮とお話：
ダン・エッティンガー
ヴァイオリン：服部百音



10月31日(月) 第28回

指揮とお話：**円光寺雅彦**
ピアノ：清塚信也



千夜一夜物語

1回券6月発売

ワーグナー／楽劇『ニュルンベルクのマイスター
ジンガー』より第1幕への前奏曲
ワックスマン／カルメン・ファンタジー*
リムスキー＝コルサコフ／交響組曲『シェエラザード』

**オーケストラ・クライマックス
～ピアノ協奏曲編～**

1回券8月発売

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番より第1楽章*
ショパン／ピアノ協奏曲第1番より第2楽章*
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番より第3楽章*
ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲『展覧会の絵』(ほか)

愛され続けて23年目。午後コンの“元祖”
休日の午後のコンサート

東京オペラシティ コンサートホール
開演14:00 (開場13:15)

7月24日(日) 第93回

指揮とお話：**三ツ橋敬子**
バンドネオン：小松亮太



夏を踊る

1回券6月発売

ガーデ／ジェラシー*
ピアソラ／アディオス・ノニーノ*、リベルタンゴ*
ビゼー／歌劇『カルメン』第1組曲
ファリャ／バレエ音楽『三角帽子』
第2組曲より『粉屋の踊り』～終曲 (ほか)

9月4日(日) 第94回

指揮とお話：**小林研一郎**
ヴァイオリン：荒井里桜



11月27日(日) 第95回

指揮とお話：**大井剛史**
ソプラノ：森麻季



コパケンの名曲アラカルト

1回券6月発売

グリムカ／歌劇『ルスランとリュドミラ』序曲
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲*
ドヴォルザーク／スラブ舞曲第10番
スメタナ／連作交響詩『わが祖国』より
「シャルカ」「モルダウ」

クリスタル・クラシック

1回券8月発売

ドヴォルザーク／序曲『謝肉祭』
わが母の教えたまいし歌*
山田耕柞／赤とんぼ* この道*
プッチーニ／歌劇『ラ・ボエーム』より「私が街を歩けば」*
ドヴォルザーク／交響曲第8番 (ほか)

photo: 尾高忠明・小林研一郎©上野隆文／栗田博文©友澤綾乃／チョンミン©Silvia Lelli／三ツ橋敬子©Earl Ross／小松亮太©Yusuke Takamura／ダン・エッティンガー©Juergen Altmann／服部百音©Yuji Inagaki／荒井里桜©Toyohiro Matsushima／円光寺雅彦・大井剛史©K. Miura／清塚信也©Kunito Watanabe／森麻季©Yuji Hori

お申込み・お問合せは **03-5353-9522** (10時～18時/土日祝休・チケット発売日の土曜日は10時～16時の営業)
東京フィル <https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)
チケットサービスまで

東京フィルだより

Photo Reports 2022年4月・5月の演奏会より

4月～5月は『午後のコンサート』3シリーズの2022シーズン開幕公演と、名誉音楽監督チョン・ミョンフンによる5月定期演奏会3公演をお届けしました。事業提携を結ぶ長野県軽井沢町の軽井沢大賀ホールでは、「軽井沢大賀ホール2022春の音楽祭」開幕公演に出演。各公演とも笑顔と新たな発見があふれるコンサートとなりました。

写真＝寺司正彦(4/28)／上野隆文(5/18,22)

第25回平日の午後のコンサート(4/28) 〈ウィーンの思い出〉

指揮とお話：尾高忠明(桂冠指揮者)
コンサートマスター：三浦章宏

J.シュトラウスII／喜歌劇『こうもり』序曲
J.シュトラウス／ワルツ『天体の音楽』
J.シュトラウスII／ワルツ『皇帝円舞曲』
J.シュトラウスII／ポルカ『クラップフェンの森で』
ベートーヴェン／交響曲第6番『田園』



『皇帝円舞曲』はオーストリアとドイツの同盟締結を機に作曲され、もとは「手に手を取って」というタイトルで国と国との友好を表していました」とマエストロ

軽井沢大賀ホール2022 春の音楽祭(4/29)

指揮とお話：尾高忠明(桂冠指揮者)
ピアノ：松田華音*
コンサートマスター：三浦章宏

J.シュトラウスII／ワルツ『皇帝円舞曲』
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番『皇帝』*
ベートーヴェン／交響曲第6番『田園』



今年度は東京オペラシティコンサートホール開館25周年の記念すべき年でもあります



『午後のコンサート』初登場の栗田博文氏は幅広いジャンルで活躍中のマエストロ

第92回休日の午後のコンサート(5/15) 第13回渋谷の午後のコンサート(5/16) 〈北欧より〉

指揮とお話：栗田博文
コンサートマスター：近藤薫

グリーグ／劇付随音楽『ペール・ギュント』より
シベリウス／組曲『四つの伝説曲』より第4曲
「レンミンカイネンの帰郷」
バーンスタイン／『キャンディード』序曲
バーンスタイン／『ウエスト・サイド物語』より
シンフォニック・ダンス



お客様からの質問コーナー「指揮者になりたいと思ったきっかけ」として、「中学2年生の時に尾高忠明氏の指揮で初めて生のオーケストラを聴いた経験」を語りました

5月定期演奏会(5/18、20、22)

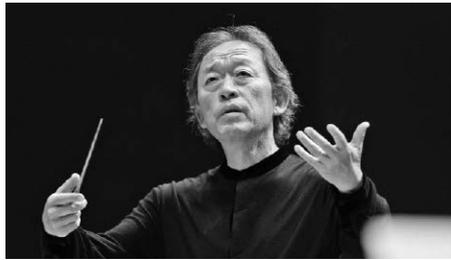
指揮：チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)
コンサートマスター：近藤 薫

フォーレ／組曲『ペレアスとメリザンド』
ラヴェル／『ダフニスとクロエ』第2組曲
ドビュッシー／交響詩『海』

(管弦楽のための3つの交響的素描)

ラヴェル／

管弦楽のための舞踏詩『ラ・ヴァルス』



フランス音楽の経験豊富なマエストロ チョンによる
待望のオール・フレンチ・プログラム。表現の多彩
さ、美しさに心奪われるひととき



オーケストラの楽器が、それぞ
れの多彩な音色と表現を駆使
して浮かび上がらせた珠玉の
管弦楽の調べ。重要なソロを
担当したメンバーにはとりわけ
長く大きな拍手が送られました



終演後には、マエストロの再登場を待ち望んだお客様からの熱く長いカーテンコールが行われました(5/18)



お客様が掲げた「BRAVO!」
の文字が入ったタオルを受け
取り、オーケストラメン
バーにも掲げて見せるマエ
ストロ(5/20) たくさんのご
来場と拍手を誠にありがとう
ございました!

クラシックとの出会い

静岡県富士山世界遺産センター館長／
(公財)東京フィルハーモニー交響楽団 理事
遠山敦子



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第10回は、文部省に女性初のキャリアとして入省、文化行政にも造詣が深く、文化庁長官、文部科学大臣、新国立劇場運営財団理事長などを歴任、現在も東京フィルの理事として楽団を支えてくださっている、遠山敦子氏に登場いただきます。



私がクラシック音楽に本格的に出会ったのは、1952年の初秋、中学2年生の時でした。その日、静岡市の公会堂で行われるヴァイオリンのコンサートに、ドキドキしながら出かけました。1年前に三重県から静岡へ転居したばかりの田舎者でしたが、世の中は戦後の混乱期からやっと落ち着きを見せ始めた頃でした。

舞台上に現れたのは、若き日のアイザック・スターンでした。曲は、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲で、まるで天上の音楽のように私の心にしみ渡りました。のちに世界的な演奏家となる人とは、つゆ知らず、その音色に聞き惚れ夢見心地となった私は、帰宅後、早速蓄音機をおねだりして買ってもらいました。

ただ、レコードは自分のお小遣いで買うべきと思い、市内の有名なレコード店へ行って、どうしてもメンデルスゾーンのかの曲が欲しいのですが、と相談すると「お嬢さん、その曲はSPで3枚セットになっており、〇〇円です。」と言われました。その日の私の財布の中身は不十分でした。でも、このまま帰るのは残念と思い、勇気を出して「どうしても欲しいので、来月必ず買いに来ますから今日は1枚だけ頂けませんか。」と交渉してみまし

2017(平成29)年の開館時より館長をつとめている「静岡県富士山世界遺産センター」は、2013年6月に世界文化遺産に登録された「富士山」の普遍的価値を広め、後世にその美しさを守り伝えるための拠点施設。海外からも数多くの来訪者があります。



た。多分呆れながら、よくぞ応じてくれ結果的に3か月かけてハイフェッツの“メンコン”を手に入れました。

その後は、兄を説得して二人分のお小遣いで、『モルダウ』、『新世界』、『冬の旅』などを導入として、次第に奥深いクラシックの世界に入り込みました。

そのモルダウですが、今年の東京フィルのニューイヤーコンサートで、会場からの希望を募り演奏される曲に選ばれ、私は、若き日の出来事を懐かしく思い出しました。しかも去る3月には、ミハイル・プレトニョフの指揮で、スメタナの『わが祖国』全曲が演奏され、モルダウは、格別美しく響きました。その指揮者は、自らの祖国の振る舞いを憂いつつも、万感の思いをこめてタクトを振られたのではと推察します。

クラシック音楽は、人間の苦悩や哀しみには心に安寧を与え、感興を得たいときには、それに答える力があります。私は、新国立劇場運営財団理事長の時、東京フィルハーモニーに出会い、今もその調べの妙なることを願い応援しています。

遠山敦子(とおやま・あつこ)

東京大学法学部卒業後、1962年文部省(当時)に初の女性キャリアとして入省。文化庁次長、教育助成局長、高等教育局長、文化庁長官を歴任。文化庁次長の時、新国立劇場の建設のため奔走。駐トルコ共和国日本大使、文部科学大臣、(公財)新国立劇場運営財団理事長、(公財)トヨタ財団理事長(現在は顧問)を歴任。2017(平成29)年より静岡県富士山世界遺産センター館長。2004(平成)年より公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団理事。

紫陽花が咲く頃となりました。

皆様におかれましてはお健やかに過ごしのことと存じます。

今月は、マエストロのこだわりが詰まった楽曲の数々をお届けいたします。

マエストロと楽団の調和が生み出す響きをぜひご堪能ください。

引き続き、当楽団を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役 社長 CEO 樫尾 和宏
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 松本 浩司	キャノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	コスモエネルギーホールディングス(株) 代表取締役社長 社長執行役員 桐山 浩

サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 加賀美 猛

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役会長 小澤 勉

ソニーグループ(株)
代表執行役 会長兼社長 CEO 吉田 憲一郎

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 萩本 友男

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 澤田 太郎

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 高橋 和夫

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 三和 千之

東レ(株)
代表取締役社長 日覺 昭廣

トッパン・フォームズ(株)
代表取締役社長 添田 秀樹

トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 豊田 章男

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
代表取締役会長 山本 利行

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 高島 誠

三菱地所(株)
執行役社長 吉田 淳一

三菱倉庫(株)
相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天グループ(株)
代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長 岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 畝森 達朗

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一社)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 眞吾

(株)トレミール
代表取締役 茶谷 幸司

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

富士通(株)
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

コロナ禍において、皆様からたくさんの方の励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は今も社会に大きな影響を及ぼしています。東京フィルもまた、深刻な打撃を受けています。2020年2月下旬から数か月にわたり、出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。その後も感染状況により公演の中止や延期、チケットの販売停止を余儀なくされております。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。指揮者と楽団員、スタッフはPCR検査や抗原検査を何度も受けて公演に臨んでおり、これらの検査に掛かる費用もまた楽団の財政を圧迫しています。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を続けてまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援・ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけますと幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(41ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行(郵便振替)	00120-2-30370	公益財団法人
三井住友銀行・ 東京公務部(096)	普通預金 3003239	東京フィルハーモニー 交響楽団

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521(土日祝日を除く10時~18時)

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 巡回公演事業」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、さらに2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

令和4年度からは、「文化芸術による子供育成推進事業」と事業名が変更となり、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受けました。今年度は5月から12月にかけて、小中学校14校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催します。

留学生の演奏会ご招待… 留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンファン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切にさせていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス
電話：03-5353-9522(10時～18時/土日祝休)

5月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。
心より御礼申し上げます。

小澤 薫、中野 恭子、風間 重雄 ほか、匿名希望11名 (五十音順・敬称略)

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
 - 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
 - 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
 - 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい
- どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部
電話：03-5353-9521(平日10時～18時) Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィル 賛助会 会員募集中

2022年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立111年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、東京フィルは社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

種別	年会費1口	
オフィシャル・サプライヤー	詳細はお問い合わせください。	
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラブノディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリユード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「主催者カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{のぞみ}・鹿文)

電話: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アシソエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michiyo Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃◎ Kayano Ogasawara	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	遠藤 柁一郎 Shuichiro Endo	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hirosi Ishikawa	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	平田 慎 Shin Hirata	ステージマネージャー Stage Managers
広田 勇樹☆ Yuki Hirota	小栗 亮太 Ryota Oguri	クラリネット Clarinets	田場 英子 Eiko Taba	山内 正博 Masahiro Yamauchi	稲岡 宏司 Hirosi Inaoka
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	チョ・スンホ◎ Sung-ho Cho	塚田 聡 Satoshi Tsukada	吉江 賢太郎 Kentaro Yoshie	大田 淳志 Atsushi Ota
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	テューバ Tubas	古谷 寛 Hirosi Furuya
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山内 研自 Kenji Yamanouchi	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto	萩野 晋 Shin Ogino	
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets		
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	ファゴット Bassoons	川田 修一◎ Shuichi Kawata	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	野田 亮◎ Ryo Noda	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	さかひし 矢波 Yanami Sakahashi	井村 裕美 Hiromi Imura	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	下払 桐子 Kiriko Shimobarai	桔川 由美 Yumi Kikkawa	前田 寛人 Hirohito Maeda	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
	森 純一 Junichi Mori			縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
				船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フオアシュピラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2022, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 111th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		日枝 久
常務理事	遠山 敦子		南 直哉
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佑子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉 2022(令和4)年6月8日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉 東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel. 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉 米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉 歌文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

演奏会場の感染対策について

演奏会の開催にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。引き続きの感染症予防のご協力をお願い申し上げます。

写真=三浦興一／上野隆文

客席・ロビーの対策について



入場前の手指消毒、常時マスク着用、間をあけて整列をお願いいたします



入場の際に、サーモグラフィカメラ等での検温を行っています



ホール入退場時の密集を避けるため、時間差による入退場のご協力をお願いいたします

ご来場者様の中から感染者が発生した場合には、保健所等の公的機関と連携の上、ご購入の際に取得した購入者情報を緊急連絡先として使用させていただく場合がございます。チケットご購入者をご来場者が異なり、購入者情報を緊急連絡先として望まない場合は、必ずチケット半券裏面の余白にご来場者様のお名前と緊急連絡先(電話番号など)のご記入をお願いいたします。



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

会場では常時マスクの着用をお願いいたします。

ロビーや客席内での会話はお控えください。

ロビー等ではお客様同士の間隔を十分におとりください。

頻回の手指消毒をお願いいたします。

場内はスタッフが消毒・清拭を行っております。

客席内は十分な換気を行っております。

時差入退場にご協力ください。



TOKYO PHILHARMONIC ORCHESTRA

SEASON 2022